

みんなでやらいや！みなぎるパワーと熱い思いで地域に恩返し

北栄町 村岡武士

1 要旨

生産面において、ハウス増設により単価の高いハウス野菜を増産し、安定した供給を目指します。販売面において、市場からの要望販売品目に対応し、通年して安定した受注と売上増を目指します。生産増・販売増に対応していくために、“人財”（人材）の確保、働きやすい環境作りに取り組みます。これらの目標を実現するため、がんばる農家プランを活用し、従業員がひとつの目標を共有して、より良い経営を目指したいと思います。

2 はじめに

平成12年に親元就農。21年前の当時は野菜の直売所が次々とオープンし、自分の作った野菜を自分で価格を決めれる事ができ、こだわり野菜が完売する時の嬉しさを今でもとても良く覚えています。その体験が私の目指す農業のきっかけとなりました。

それから時代は大きく変わり、作れば売れる時代は終わり、必要なものが必要なだけしか売れない時代となってきました。野菜の価格が上がらない中、肥料費、資材費、物流費等の生産コストが年々上昇し続け、ただ単に野菜を作り市場に出荷しているだけでは、安定した経営が成り立たなくなってきています。そんな中、就農当時より味にこだわって栽培していたフルーツトマトは契約単価も年々上昇し、現在経営の柱となっていますが、このフルーツトマトを高温により栽培できなかった夏場にも取り組み、年間を通して収入を確保し、経営の安定化と、周年雇用しやすい環境を作りたいと考えています。

また、もう一つの柱として、市場より要望のある施設茄子の栽培も規模拡大し、新たな産地をすることで、より安定した有利販売を行っていきます。昨今、新規就農者も増えてきており、再生産出来る農業を行うことにより新たなモデルとなり地域全体での農業に貢献していきたいと考えています。



オリジナルロゴ

3 プラン目標

項目	令和3年度 (現状)	令和4年度 (1年目)	令和5年度 (2年目)	令和6年度 (3年目)	令和7年度 (目標年)
施設作付面積 (a)	114	136.5	143.5	153.5	153.5

(参考) 作付面積

(単位：a)

品目		令和3年度 (現状)	令和4年度 (1年目)	令和5年度 (2年目)	令和6年度 (3年目)	令和7年度 (目標年)
ハウス	フルーツマト	43	49	49	49	49
	ミニトマト	12	6	6	6	6
	中玉トマト	12	16	16	19	9
	大玉トマト	0	6	6	6	6
	西瓜	12	11	11	11	11
	茄子	20	23	30	37	47
	きゅうり	14	12	12	12	12
	その他	1	13.5	13.5	13.5	13.5
ハウス合計		114	136.5	143.5	153.5	153.5
露地	白菜	300	364	364	364	364
	キャベツ	50	55	55	55	55
	人参	300	369	369	369	369
	西瓜	38	0	0	0	0
	さつまいも	40	30	30	30	30
露地合計		728	818	818	818	818
作付面積合計		842	954.5	961.5	971.5	971.5

栽培体系 (ハウス)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R3ハウス内訳	R7ハウス内訳 (目標年)
中玉トマト (華おとめ)		○ 半促成	→	←	→	←	○ 抑制	→	←	→	←	→	4.3 a 6棟	4.9 a 7棟
ミニトマト		○ 半促成	→	←	→	←	○ 抑制	→	←	→	←	→	1.2 a 2棟	6 a 1棟
西瓜 ⇒ 中玉トマト (シンディ)		○ 西瓜	→	←	→	←	○ 中玉	→	←	→	←	→	2.4 a 4棟	1.8 a 3棟
茄子		○	→	←	→	←	→	←	→	←	→	←	19.8 a 6棟	4.7 a 17棟
西瓜 ⇒ メロン		○ 西瓜	→	←	→	←	○ メロン	→	←	→	←	→	-	3.6 a 1棟
きゅうり ⇒ 春菊	←	○ 半促成	→	←	→	←	○ 抑制	→	←	○ 春菊	→	←	-	9 a 1棟
大玉トマト ⇒ きゅうり ⇒ 春菊	←	○ 大玉	→	←	→	←	○ きゅうり	→	←	○ 春菊	→	←	-	1.8 a 2棟
オクラ ⇒ スナップエンドウ	←				○ オクラ	→	←	→	←	○ スナップ	→	←	-	3 a 1棟
													ハウス棟数	18棟 ※育苗ハウス1棟
														3.3棟

栽培体系 (露地)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
白菜	→	←	○					○	→	←	○	
キャベツ	→	←	○					○	→	←	○	
人参				○	→	←	○	→	←	○		
さつまいも					○	→	←	○	→	←	○	

○...定植
▲...収穫

4 課題・解決策と効果

1) 安定した生産・売上について

【課題】

近年は野菜の注文数量が増えてきて栽培面積を増やし対応してきました。しかし、現在のハウス棟では各取引先のトマト・茄子の注文要望量に答えられていない状況で、量販店などの大口契約受注の機会を逃しています。

【解決策】

- ・現在の露地栽培圃場にハウス（がんばる農家プラン10棟・低コストハウス4棟）を増設し、市場や量販店などの取引先から要望が強く単価の安定しているトマト・茄子の栽培・出荷量を増やします。
- ・農家グループを集い茄子の産地化を目指し、グループ内の技術力向上のため、定期的に圃場巡回や種苗肥料メーカーを招いた勉強会を開催します。

【効果】

- ・ハウスの増設により、市場や量販店などの要望作物を増産でき、大口契約の受注が期待できます。
- ・産地化することで、安定した出荷量と有利販売が期待できます。
- ・農家グループを集うことで仲間づくりができ、農家同士がお互いの技術や考えに触れることで経営改善などの意識の向上が期待できます。また、定期的に圃場巡回や勉強会を開催することで生産性と技術力の向上も期待できます。目標として県内生産者20～30名、面積2haを目指します。

2) 周年雇用対策

【課題】

- ・現在、従業員5名、パート4名を雇用しています。更に周年雇用を希望する人材がいても、6月～11月の忙しい時期のみの短期雇用となってしまう、次世代を担う人材が確保できにくい状況です。
- ・1月下旬～5月下旬の期間は露地野菜がメインとなるが、天候に左右されやすく安定した生産ができていないので、周年雇用を行うためには通年して安定した生産と売上が必要です。

【解決策】

- ・ハウスを増設し、施設栽培面積を増やします。
- ・単価の安定している半促・抑制トマト、茄子の栽培面積増と、1月下旬～5月下旬の期間に春菊・スナップエンドウを栽培します。
- ・人材の育成として、定期的に、園の経営状態や任されている作業等の進行状況、問題点、取引先の販売状況などを話し合う場を設け、情報を共有できる環境を作ります。

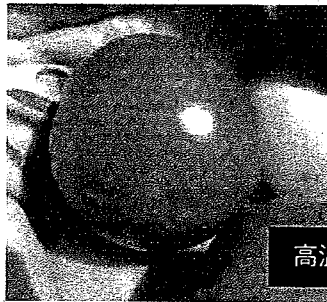
【効果】

- ・露地野菜がメインとなっていた1月下旬～5月下旬の期間に、ハウス野菜の栽培もできるようになり売上げが見込めます。
- ・露地野菜に加え、年間を通してハウス野菜の収穫・出荷量が増えるので、新たな雇用の確保ができるようになります。
- ・作物の栽培技術も大事ですが、個人が取引先の担当を持つことで、営業力、販売力などのスキルを向上させられることと、園全体と個別の売上状況を把握し、『数字』に対して関心と責任感を持たせることで、モチベーションを高められるようにします。

3) ハウスの高温対策について

【課題】

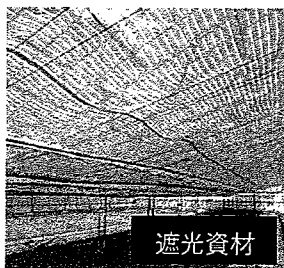
近年、夏の猛暑日が多くハウス内温度も40°Cを超える日が度々あり、その結果、着果不良、軟果裂果などの品質低下が頻繁に起こり、収穫量・出荷量減となっています。各取引先より7月～8月の時期に県内産のトマトが欲しいとの要望が多いですが、高温期となることと、ハウス巻上げ1.5mに対してトマトの生育も2mを超えてくる為、現ハウスの循環扇などの換気対策だけでは、品質を保つことが難しい状況となっています。茄子においても、高温による着果不良やしおれ、表面に焼けが生じたりと品質低下により出荷量が安定せず、取引先の要望に応じた数量・品質の確保が難しい状況となっています。



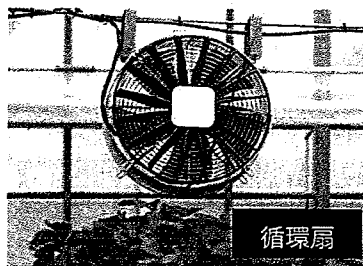
高温により軟果したトマト

【解決策】

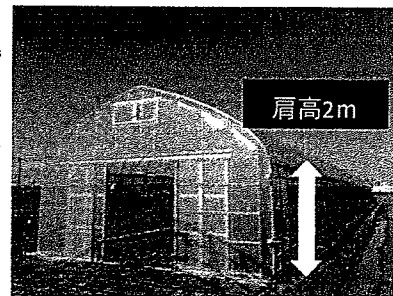
- ・増設のハウス巻上げの高さ約1.5mを2mへ設計しハウス横側からの換気効率を上げます。
- ・ハウス内に巻上げ式の遮光資材を設置します。優れた遮熱性により昼間の高温時には温度の上昇を抑え、夜間は逆に熱を逃がさず保温し作物の品質を守ります。
- ・ハウス内に循環扇を設置し、ハウス内の空気を循環させ、高温時は熱気をハウス外へ排出します。
- ・各ハウスに点滴灌水を設置します。点滴灌水は土地の高低や畑かんからの距離による圧力の差に左右されることもほとんどありません。農地全体にムラなく水がいきわたるので、高温時のしおれ等から作物を守ります。



遮光資材



循環扇



肩高2m

【効果】

- ・遮光資材設置と巻上げの高さを2 mにすることで、ハウス横側からの換気効率を上げハウス内温度の高温化を抑制し、トマトの樹高範囲の風通しが良くなり、病害、着果不良、軟果裂果の品質低下などを回避でき、収穫量・出荷量の安定が期待できます。
- ・遮光資材を巻上げ式にすることで、太陽光が必要な時には巻上げ、高温となる場合は下し、出来るだけ作物の生育に適した環境を作ることが可能となります。また、ハウス内環境の改善は作物に対してだけではなく、熱中症対策など作業者の労働環境も改善されます。
- ・循環扇の設置により、強制的に空気の入替えを行い、熱気を排出するだけではなく多湿になりやすいハウス内の空気を動かすことで病害の抑制も期待できます。
- ・点滴灌水にすることで、水が土壌にゆっくり浸透していくため毛根への負担が少なく施設内の湿度が高くなりすぎるのを改善できるといった特徴もあります。湿度が高すぎると作物の病害につながる恐れもあるので、多湿を防ぐことで病害の予防につながるという点も期待できます。

5 プランによる効果

- ・経営の安定化により、周年雇用しやすい環境作りと、地域雇用の促進と次世代を担う人材の育成ができるように努めます。また、ベテランから新規就農者の農家グループを集い、新たな産地を作ること、安定した出荷量と有利販売を目指し、農家同士の仲間づくりと、生産性、技術力、モチベーションの向上を目指します。

6 具体的な取り組みと役割分担

項目	R4年度	R5年度	R6年度	役割分担
土地の確保	○	○	○	農業委員会・本人
ハウス増設	◎	◎	◎	県・町・本人
雇用・育成	○	○	○	農の雇用事業・本人

◎は県・町の支援が必要なもの

○は支援事業以外の取り組み

支援事業内容

(税込)

項目	数量	事業費 (円)	負担区分 (円)			
			県 (1/3)	町 (1/6)	事業実施主体 (1/2)	
R4年度	●パイプハウス一式 (40m×6m) ※肩高2m ※循環扇6基(3棟分)	3棟	9,943,255	3,000,000	1,500,000	5,443,255
	小計		9,943,255	3,000,000	1,500,000	5,443,255
R5年度	●パイプハウス一式 (40m×6m) ※肩高2m ※循環扇6基(3棟分)	3棟	9,784,949	3,000,000	1,500,000	5,284,949
	小計		9,784,949	3,000,000	1,500,000	5,284,949
R6年度	●パイプハウス一式 (40m×6m) ※肩高2m ※循環扇8基(4棟分)	4棟	12,941,553	3,000,000	1,500,000	8,441,553
	小計		12,941,553	3,000,000	1,500,000	8,441,553
合計			32,669,757	9,000,000	4,500,000	19,169,757

